

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

「福岡大空襲」の日に平和学習を実施しました

1945年6月19日の深夜、B29約200機が福岡市の都市部に対して2時間にわたって焼夷弾を落としました。福岡市は火の海に包まれ、まちは焦土と化しました。被災戸数1万2,693戸、被災人口6万599人を数え、死者902人、負傷者1,078人、行方不明244人を出しました。多くの建物が炎上し、炎の中に暮らしや肉親を失った人々にとって、忘れることのできない恐ろしい夜となりました。(数字はいずれも、『福岡市史』による)

本校では、「福岡大空襲」を題材に、全学年で平和学習を行っています。平和学習は、平和と命の尊さを理解し、平和な社会を築いていこうとする態度を育てることをねらいとしています。戦争を知らない世代が増えている今だからこそ、学校での平和学習の意味が大きくなっています。



(左から) 3年生、4年生、5年生の「平和学習」の様子 読み物資料や動画をもとに戦争と平和について考えました

- ・(平和な生活を続けるために) けんかをしたらやり返さないで仲直りしたいです。(1年生)
- ・戦争が始まると、一人一人が力を合わせて戦争を終わらせたって、その心の大きい傷は治らないことがわかりました。(2年生)
- ・今の自分たちで戦争は なくせないけど、小さい子たちや戦争にまきこまれている人たちを救ってあげたいと思いました。(3年生)
- ・戦争によって人、食料、自由、全部失います。たくさんの人が亡くなって、たくさんの人がけがをしたと思うと、とても怖いし、悲しいです。世界を平和にしたいです。(4年生)
- ・願うだけでなく、他の人に伝えて仲よくしたり、「平和はとても大事なんだよ」と伝え合ったりしたいと思いました。はじめは、家族の人に話し、それからもっと他の人に伝えていけばいいと思いました。(5年生)
- ・毎日安全に楽しく過ごせているのは、当たり前ではないと改めてわかりました。身近な所で悲しいことが起こっていることがわかり、平和学習はとても大切な勉強だと思いました。(6年生)
- ・学習してゾッとして鳥肌が立ちました。原爆資料館を残さないと、未来の日本人がこんなことがあったと知らずに、永遠に戦争がなくなるのではないかと思います。(6年生)

1年生は戦争の恐ろしさを感じ、学年が上がるにつれて自分たちの生活と結び付け、戦争の記憶を伝えていく大切さにも考えが及んでいます。社会や身の周りに目を向けると、他者に対する寛容さや協調・調和することが難しい世の中になったと思うことがたくさんあります。他者を思いやることについて少しでもいいので、みんなが歩み寄れば世の中が変わっていくように思います。